

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

期 間：令和4年12月4日(日) 開催

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：「伝統と革新 ～知・技・験の伝承～」  
50回だヨ！ 全員集合～



### 学会発表の思い出

第50回 埼玉県医学検査学会  
学術部 岸 健太

第50回埼玉県医学検査学会にて学術部を担当しております、TMGあさか医療センターの岸 健太と申します。

学会の一般演題締め切り7月15日(金)まで、残すところあと1ヶ月となりましたが、発表を予定している皆さまの準備の程はいかがでしょうか。私は埼玉県医学検査学会で初めての学会発表を経験しましたが、締め切りギリギリまで抄録作成に追われていたことを覚えております。皆さまにはゆとりを持った計画的な準備をおすすめします。

私の学会発表はテーマを探すところから抄録・スライド作成、そして発表まで全てが初めての経験で四苦八苦した記憶がありますが、諸先輩方のサポートもあり無事に学会発表を終えることができました。学会発表を終えると、緊張からの解放と大きな達成感を味わいました。そして、いつしか日々の業務の中に探求心を向けて取り組めるようになっており、臨床検査技師としての成長を感じました。

学会発表となると、何度経験しても緊張すると思いますが、自身の成長はもちろんのこと、埼臨技全体のスキルアップにもつながります。今回、50回という大きな節目を迎えた学会に、多くの方々のご参加いただけることを願って実行委員一同準備を進めておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。また、学会ホームページにて最新の情報を随時更新しておりますので是非ご覧ください。



## 研究班研修会報告

### テーマ 下腹部痛の消化管エコー ～ 知っておきたい下部消化管疾患 ～

主催 生理検査研究班

実施日時：令和4年4月12日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：斧研 洋幸（聖マリアンナ医科大学病院 臨床検査部）

参加人数：会員177名

出席した研究班班員：南雲涼太 家城正和 工藤淳子 小宮山英幸 横尾愛

研修内容の概要・感想など

生理検査研究班今年度初めの研修会は、斧研氏を講師に迎えて行われた。講義は、消化管の層構造・位置関係など基礎的な部分から始まり、下腹部痛をもたらす消化管疾患について中級者向けの内容まで行われた。虫垂炎・腸炎・腸閉塞・イレウス・憩室・クローン病など多くの症例を美しい画像とともにポイントを交えて詳細に解説され、日常に役立つ内容であった。走査画像も動画を用いディスプレイにて近距離で見ることができ、Web研修会の良さが感じられた。聴講者からも積極的に質問が出され、活発なディスカッションが行われた。

超音波検査は患者と対話しながら、鑑別を頭に浮かべ検査することができる。鑑別を挙げず猪突猛進に検査を行ってはならないという言葉が印象的だった。

難易度が高いと思われ、避けられがちな消化管超音波検査であるが、異常所見があれば描出されやすく、鑑別を浮かべていれば気づくことができるとのことであった。今回の講義を聞いて、積極的にチャレンジしていきたいと感じた。

（文責：南雲涼太）

### テーマ 令和3年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と新しい妊娠高血圧腎症マーカー

主催 血清検査研究班

実施日時：令和4年4月14日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講演 1：令和3年度臨床検査精度管理事業報告

講師：藤代 政浩（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 2：妊娠高血圧腎症の短期発症予測補助マーカーsFlt-1/PlGF比について

講師：木村 美鈴（ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 フィールドサイエンティスト）

参加人数：会員83名 賛助会員2名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 富田耕平 岡倉勇太 飯山恵

研修内容の概要・感想など

今回は令和3年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告（免疫）と新しい妊娠高血圧腎症マーカーであるsFlt-1/PlGF比（可溶性fms様チロシンキナーゼ-1/胎盤増殖因子）の内容であった。

令和3年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告では、免疫部門での各項目の結果と評価について藤代氏より説明があった。今年度は試料を変更し、測定項目にFT4が新規追加された。全体的には良好な結果であったが、昨年度と同様に測定試薬・測定原理の入力間違

えや誤解答が散見された。今年度は入力間違えの施設は「評価なし」としたが、来年度からはD評価となるので各施設で結果を確認する際はより注意していただきたい。

続いて、sFlt-1/PIGF比について木村氏より講演が行われた。妊娠高血圧症（PE）は高血圧及び蛋白尿を伴う妊娠疾患であり、重篤・緊急を要する合併症の危険性が高く、また発症から増悪までの期間が極めて短いなど母胎・胎児へのリスクが高い疾患である。発症すると原則入院管理となり、治療はtermination（妊娠の中断）が基本となる。PEの予測は尿蛋白検査や血圧測定であるが、PEを特異的に予測する検査がsFlt-1/PIGF比である。これは胎盤形成に関わる血管新生因子PIGFおよびその阻害因子sFlt-1はPEの病態形成に関与していることが明らかになっており、PEを発症する妊婦は、発症前に血清中のsFlt-1のPIGFに対する比率sFlt-1/PIGFが上昇することから、sFlt-1/PIGF比がPEの発症を予測する指標として注目されている。国際共同研究PROGNOSISにおいて、臨床的にPE発症のリスクが高いと考えられる妊婦を対象に発症予測性能を評価した。結果、sFlt-1/PIGF比38がカットオフ値として有用的中率を持つことがヨーロッパならびにアジアで確認され、38以下はその後1週間でPE非発症（陰性的中率99.3%）、38を超えた場合には以後4週間以内のPE発症（陽性的中率36.7%）の予測補助となる可能性が示唆されている。これにより、医療費の削減、NICU入院、母胎の管理などが改善したデータも存在している。

sFlt-1/PIGF比は未だ全国的には浸透度は低い検査項目だが、今回の研修会で得た知識は重要であり、今後の業務に是非活用していきたい。

（文責：渡邊剛）

## テーマ 令和3年度埼玉県・ 埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説（微生物）

主催 微生物検査研究班

実施日時：令和4年4月20日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：フォトサーベイ

講師：佐々木 真一（ビー・エム・エル総合研究所）

講演 2：同定検査

講師：酒井 利育（自治医科大学附属さいたま医療センター）

講演 3：薬剤感受性検査

講師：今井 芙美（埼玉県立がんセンター）

講演 4：グラム染色

講師：伊波 嵩之（さいたま赤十字病院）

参加人数：会員33名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井芙美 岸井こずゑ 伊波嵩之 佐々木真一  
大塚聖也 渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

本年度最初の研修会を「令和3年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説（微生物）」をテーマに開催した。フォトサーベイ、同定検査、薬剤感受性検査、グラム染色について各出題担当から結果報告と解説があった。フォトサーベイでは、フォトCで *Streptococcus pneumoniae*（ムコイド型）を出題した。一般的にムコイド型は莢膜が厚く、白血球に貪食されにくいため病原性が高いことが知られている。そのため重症化や難治性になりやすいため *Streptococcus pneumoniae* 回答の施設は、ムコイド型まで回答していただきたいと報告

があった。同定検査では、*Plesiomonas shigelloides*と*Candida albicans*を出題した。カンジダは菌種によって治療薬が異なるため、血液培養より検出された*Candida*属は菌種まで同定する必要がある。*Candida* sp.と回答した施設は菌種まで同定できるようにしていただきたいと報告があった。薬剤感受性検査では、*Pseudomonas aeruginosa* (ATCC27853)と*Haemophilus influenzae* BLNAR (臨床分離株)を出題した。正確な検査結果を報告できるよう内部精度管理を実施することが重要だと話があった。また*Haemophilus influenzae*は、耐性菌名を決定する上でβ-ラクタマーゼ試験を実施することは必須であるので、必ず実施していただきたいと報告があった。グラム染色では、*Moraxella (Branhamella) catarrhalis*を出題した。全ての施設が、グラム陰性球菌と回答する非常に良好な結果であった。一方で、グラム染色とフォトサーベイにおいて参加申し込みしているにも関わらず無回答の施設が散見された。無回答の場合は、評価Dとなるので注意していただきたい。各設問において評価が悪かった施設は、問題点を見直し、改善していくことが重要である。

(文責：小棚雅寛)

## テーマ 令和3年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告

主催 血液検査研究班

実施日時：令和4年4月21日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演1：フォトサーベイ回答・解説

講師：堀口 大介 (獨協医科大学埼玉医療センター)

講演2：国際ガイドラインCLSIに基づいた血液学的検査の精度管理

講師：池田 尚隆 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社)

参加人数：会員35名 賛助会員2名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 澁川絵美 星聖子 堀内雄太 加藤鉄平  
島田崇史 吉澤悟

研修内容の概要・感想など

講演1では、堀口氏によりフォトサーベイの回答・解説が行われた。

設問は5つあり、それぞれ回答の集計結果と共に、細胞の特徴、注意すべき検査結果について解説があった。写真1は腫瘍性リンパ球(ATL細胞)であり、反応性(異型)リンパ球と腫瘍性リンパ球の違いやリンパ球増多症における鏡検ポイントなどの話があった。写真2～4についてはMDSの症例であり、それぞれ類似する細胞との鑑別やMDSのWHO分類についての話があった。写真5はAPLの症例で、解答であるファゴット細胞について、PML-RARA遺伝子異常についての話があった。これから血液検査に携わる人やほとんど血液像を見ない施設の方へ向けて、わからない細胞に遭遇した時にどのように対処すべきか、他の技師や担当医とのコミュニケーションの必要性など、日常に役立つ講演内容であった。

講演2では、国際的ガイドラインであるCLSIを基に、精度管理について基本的なところから現状の課題等、様々な話を聞くことができた。血液学分野と生化学分野の精度管理試料では、性状や保存方法、保存期間などが異なり、国際的標準物質がない現状がある。また血液検査装置のキャリブレーションの考え方や実施方法が統制されていないため、施設毎、担当者毎で手法が異なっている等、血液学的分野の精度管理に対する問題点を認識することができた。どの分野においても精度管理は非常に重要であり、個々の技師が精度管理についての知識を深め、まずは施設内で手法を統一し、このような研修会を用いて施設間差をなくしていくことが重要であると感じた。

(文責：加藤鉄平)

## テーマ **基礎から学ぶ一般検査！**

主催 一般検査研究班

実施日時：令和4年4月22日 19時00分～20時05分

会 場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講 演 1：抑えておきたい尿定性検査のお約束！

講 師：中川 禎己（小川赤十字病院）

講 演 2：当直前に知っておきたい一般検査

講 師：渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員121名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹  
小針奈穂美 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今年度最初の一般検査研究班主催の研修会をWeb環境にて開催した。

講演1では中川氏より、尿定性検査について講演が行われた。尿定性検査を行うにあたり、4つの重要なポイントが挙げられた。1つ目が「採尿方法と保存方法」、2つ目が「測定時・判定時の留意点」、3つ目が「各項目の原理と偽反応」、最後に「確認試験」であった。これらを抑えることで、尿検査で質の高い医療の提供が可能になることを、ケトン体が偽陽性を示した患者症例を基に説明されており大変勉強になった。尿定性検査における確認試験は施設により運用が異なり、他施設の運用事例を今回学ぶことができ、自施設の運用を見直すきっかけになった。

講演2では渡邊氏より、顕微鏡の使い方、尿沈渣における赤血球形態の鑑別方法、尿沈渣成分の鑑別方法や髄液検査における細胞鑑別方法など、幅広い内容の講演であった。顕微鏡を使って検査をする尿沈渣検査や髄液検査では、コンデンサの芯だしをしっかりと行うことでクリアな鏡検像を得ることが可能になり、誤判定の抑制になるとのことだった。顕微鏡の使い方は普段学習する機会が少ないためとても参考になった。

今回の研修会で学んだ内容を是非、今後の日常業務に活かしていきたい。

（文責：藤村和夫）

## テーマ **初心者の為の臨床化学**

### ～ 採血・採血管から日常業務に関わる色々なこと～

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和4年5月10日 18時30分～20時20分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：永井 謙一（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員295名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太郎 小林麻里子 巖崎達矢 石川純也 廣瀬良磨  
杉村楓 菊池萌衣 福島渉

研修内容の概要・感想など

「初心者の為の臨床化学～採血・採血管から日常業務に関わる色々なこと～」として永井氏を迎えて講演が行われた。

冒頭の「検査の始まりは採血である」という言葉にもあるように、検体検査に関わるうえで知っておかなければいけない採血手技や採血管の特性、注意すべき点について説明があった。

採血管の種類によっては、検査項目に影響を与えるものも存在するため、採血管の内容物や特性について理解しておくことが重要である。また、正しい採血手技を理解しておくことは、採血合併症やトラブルを防ぐ上で必要な知識であり、組織液や抗凝固剤の混入や溶血などの検査データへの影響を回避する上でも重要である。

さらに永井氏は「色々なこと」として初心者が知っておくべき検体の保存やデータの見方、パニック値について注意すべき点について説明があった。検体保存に関しては保存条件や保存期間等により変化がある項目も存在するため注意が必要である。データを見る際は患者情報や項目間チェックをみることが大切である。これらを確認することで矛盾や違和感に気づくことができ、ピットフォールを防ぐことができる。特に輸液の混入は、輸液の種類によって影響がある項目にも違いがあるため注意が必要である。パニック値に関しては臨床化学研究班員の施設の設定による違いが提示され、各自の施設での把握が必要であると感じた。

今回の研修会は参加人数約300人と多くの方が参加され質問も多く、充実した内容となった。時間内に回答できなかった質問に関しては後日質問集として参加者に送付し共有する予定である。

最後に永井氏は新人・若手向けへのメッセージとして目標設定を立てることの大切さを述べていたが、今回得られた知識や情報を活かして、より向上心を持った目標が立てられるよう尽力していただきたい。

(文責：北川裕太郎)

## テーマ 病理解剖の知識を高めよう！(基礎編) ～ 介助および感染対策について

主催 病理検査研究班

実施日時：令和4年5月12日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：基礎教科一20点

講演 1：病理解剖介助の基礎 ～スムーズな介助を目指して～

講師：福島 雅人 (埼玉医科大学 病理学)

講演 2：病理解剖における感染対策

講師：富永 晋 (防衛医科大学 臨床検査医学講座)

参加人数：会員276名

出席した研究班班員：関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴

遠山人成 松本祐弥 三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回の講演は「病理解剖の知識を高めよう！(基礎編) ～ 介助および感染対策について～」をテーマに2名の講師を迎えて行われた。

福島氏からは、自施設で行っているVirchow法による解剖手技について、実際の画像とイラストを交えたわかりやすい講演であった。メスの入れ方や角度、縫合時の工夫、頭蓋骨切断時のアーティファクトを防ぐ工夫など、すぐに現場で使えるテクニックについて説明があった。

富永氏からは、病理解剖時の感染対策について、自施設の剖検室の紹介を交えた講演が行われた。病理解剖においては、感染経路を遮断することに重点を置き、設備上の感染対策、個別保護具による対策が挙げられた。また、個々人が気を付ける対策として、使用器具を汚れたまま乾燥させない(飛沫の原因となる)など、つい忘れてしまいがちなことについて注意喚起があった。富永氏からも提示があったが、病理解剖における感染対策については、日臨技ホームページをはじめとして、種々の文献等で情報提供がなされており、常日頃から情報収集を行って意識を高めておくことも大切であると考えられる。

解剖症例数が減少傾向にある昨今、現場で行えない基本的な解剖介助手技と感染対策の知識を、本研修会から得ていただければ幸いである。

(文責：三鍋慎也)

**令和4年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第2回 理事会議事録**

**日時**：令和4年5月12日(木) 19時00分より

**場所**：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

**議題**：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

**出席**：現地にて出席

(理事) 神山 矢作 松岡 濱本 長澤  
山口 菊池 松尾 伊藤 笹野  
塚原 松寄 石井 神戸 阿部  
長谷川 久保田

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 長岡 神嶋

(監事) 細谷

**欠席**：(理事) 猪浦 小山 飯野

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は19名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

**Ⅰ. 行動報告** (令和4年4月14日～令和4年5月12日)

4月14日(木) 令和4年度第1回理事会：

神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、  
長澤、山口、神嶋、菊池、松尾、  
伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、  
神戸、阿部、長岡、久保田、飯野、  
長谷川、細谷

4月14日(木) 令和3年度監査：

神山、松岡、石井、神戸、細谷

4月15日(金) 日臨技関甲信支部事前会議：神山

4月16日(土) タスクシフト指定講習会会場準備：

猪浦、伊藤、松寄、長谷川

4月17日(日) タスクシフト指定講習会

(埼玉県005)：

猪浦、伊藤、塚原、松寄、石井、

神戸、長谷川、松尾

4月21日(木) 第50回学会実行委員会：

神嶋、飯野

4月21日(木) 臨地実習指導者講習会事前打ち合

わせ：塚原、菊池

4月22日(金) 日臨技理事会事前会議：神山

4月22日(金) 日臨技支部長会議：神山

4月23日(土) 日臨技理事会：神山

4月25日(月) 令和4年度第1回研究班運営委員会：

松岡、矢作、長岡、阿部、久保田、  
長谷川、飯野

4月25日(月) 令和4年度第1回理事研究班合同  
会議：

神山、松岡、矢作、猪浦、濱本、  
長岡、阿部、久保田、長谷川、飯  
野、石井、神戸、塚原、松寄

4月27日(水) 令和4年度第1回編集委員会

(メール会議)：

久保田、松岡、神戸

4月30日(土) 令和4年度第1回表彰・選考審査  
委員会：

神山、矢作、松岡、猪浦、小山、  
長澤、濱本

5月2日(月) 令和4年度第1回会計部会議：

松岡、石井、阿部、神戸

5月8日(日) 臨地実習指導者講習会関甲信支部  
講習会(第11回)：

神山、塚原、菊池

5月9日(月) 支部学会全国担当者会議：神山

5月11日(水) 日臨技認定化学免疫精度保証技師  
制度WG会議：神山

**Ⅱ. 報告事項**

**1 事務局**

1) 4月14日(木) 令和3年度監査が実施された。  
(別紙資料1)

2) 4月17日(日) タスクシフト指定講習会(埼  
玉県005)を開催した。

3) 4月25日(月) 日本医療科学大学より非常勤  
講師派遣の依頼があった。7月21日(木) 神  
山清志会長が派遣される予定。

4) 4月26日(火) 埼玉県公衆衛生事業功労者に



対する知事表彰者の推薦の依頼があった。  
提出期限は6月8日。

- 5) 4月30日(土)令和4年度第1回表彰・選考審査委員会を開催した。(別紙資料2)
- 6) 5月15日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県006)、6月19日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県007)を女子栄養大学で開催予定。(別紙資料3)
- 7) 当会事務所の土地一部と私道持ち分の交換について、契約、手続きが完了したため測量を開始する。詳細は、土地家屋調査士より連絡が来た後に報告する。

## 2 総務部

- 1) 5月16日(月)埼臨技だより第516号 発行予定

## 3 事業部

特になし

## 4 学術部

- 1) 4月9日から4月27日の期間において令和4年度第1回編集会議を開催した。(別紙資料4)
- 2) 4月25日(月)令和4年度第1回研究班運営委員会を開催した。(別紙資料5)
- 3) 4月25日(月)令和4年度理事研究班合同会議を開催した。(別紙資料6)
- 4) 5月7日(土)生涯教育プログラム6月・7月分の行事登録を行った。
- 5) 公衆衛生研究班員1名の退任について

## 5 精度保証部

特になし

## 6 会計部

- 1) 令和4年度正会員費3,254名16,270,000円、入会金16名16,000円、再入会金3名3,000円、合計16,289,000円の入金があった。
- 2) 極東製薬工業株式会社より令和3年10月1日から令和4年3月31日までの疑似便の特許使用料対価17,061円の入金があった。
- 3) クエスト更新料として55,000円を支払った。
- 4) 会員管理システム年間保守費用として220,000円支払った。
- 5) 5月2日(月)第1回会計部会議を開催した。(別紙資料7)

- 6) 石井印刷へ、埼臨技だより第515号 印刷代179,025円、封筒(角2)代60,500円、合計239,525円を支払った。

## 7 精度管理委員会

特になし

## 8 一都八県会長会議

特になし

## 9 日臨技関甲信支部

特になし

## 10 日臨技

特になし

## 11 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 4月21日(木)第7回学会実行委員会を開催した。(別紙資料8)

## Ⅲ. 承認事項

### 1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)

令和4年5月1日現在  
会員数 3,364名[令和3年度会員数3,329名]  
(新入会員 87名)  
賛助会員 32社[令和3年度 76社]  
承認された。

- 2) 令和4年度定時会員総会役員について  
(別紙資料9)

上記の件について、長澤英一郎事務局次長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 令和4年県知事表彰の推薦者について

上記の件について、濱本隆明事務局次長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 4) 表彰審査委員会規定細則の改訂について  
(別紙資料10)

上記の件について、濱本隆明事務局次長より発言があり、審議の結果、承認された。

### 2 総務部

特になし

### 3 事業部

特になし

### 4 学術部

特になし

### 5 精度保証部

特になし

**6 会計部**

## 1)PCの購入について

(別紙資料11)

上記の件について神戸考裕理事より、PCのリース契約が6月で更新となるが、契約の更新はせず、現在契約しているPCを買い取りする件について発言があり、審議の結果、承認された。

**7 精度管理委員会**

特になし

**8 第50回埼玉県医学検査学会**

特になし

**IV. 議題****1 事務局**

特になし

**2 総務部**

特になし

**3 事業部**

特になし

**4 学術部**

特になし

**5 精度保証部**

特になし

**6 会計部**

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

## あ と が き

ついにマスク生活も3年目に突入しました。日本ではいつまで続くか想像もできませんが、欧米諸国では緩和の動きも進んでいるようです。ところで欧米諸国の人々のマスク嫌いは日本でも報道されていますが、不思議に思われませんか？ その理由は諸説あるようですが、一説には感情を表に出す文化の欧米人にとっては気持ちを読み取るのに口元がわかり易いため、相手の感情を読み取るのに重要な口元が隠されたマスク姿はなじめないとのこと。あまり感情を表に出さない日本人は目元を見るほうが相手の真意を読み取りやすいので、マスク姿に抵抗がないとのこと。日本ではまだしばらくマスク生活が続くそうなので、マスク姿でもしっかり笑顔が伝わるようにしていきたいものです。

(神嶋 記)

